# 令和５年度　長崎県立諫早商業高等学校　職員自己評価表

| | |
|---|---|
| 教　育　方　針 | 専門学科で培った知識や技能を活用し、共生社会の担い手としてグローバルな視点で他者と共創できる人材を育成する。 |
| 教　育　目　標 | (1)校訓「実力　責任　忍耐　奉仕」のもと、専門学科で培った知識や技能を活用し、共生社会の担い手としてグローバルな視点で他者と共創できる人材を育成する。また、周囲と協働し論理的に課題解決策を発信できる力を育み、ビジネス社会のリーダーとして活躍できる人材を育成する。<br>(2)一人一台端末等、ＩＣＴを積極的に利用し、自ら学ぶ姿勢と情報活用能力を身に付ける教育を目指する。また、ビジネス社会に求められる知識と技能の習得に加え、ふるさとの課題を発見し、他者と協働して解決策を考えて実践する課題解決型学習の充実を目指す。<br>(3)地元の企業等との協働学習に取り組み、実社会での課題解決に生かしていくための学びを実践する。また、外国語学科を持つ強みを生かして、外国人教師等による特別授業等により、グローバルな視点と地域の視点を身に付けるための教育の充実を図る。 |
| キャッチフレーズ | 「生徒がつくる　未来へつなぐ　豊かな学び」～個の力を仲間のために～ |
| 重　点　目　標 | （１）生徒主体の学校づくり（学校行事等）<br>（２）新学習指導要領に準拠した学習評価の検証<br>（３）タブレットを用いた知識定着のドリル活用（自宅学習の充実）<br>（４）自他の尊重、社会連帯の精神の涵養と共生社会に必要な能力・態度の育成<br>（５）持効性のある広報活動の充実（募集定員の確保） |

**【評価分野】　１　学　校　経　営**

| 評価項目 | 具体項目 | 目　　標 | 具体的方策 | 評価 昨年度 | 評価 今年度 |
|---|---|---|---|---|---|
| ①学校教育目標 | 学校教育目標の具現化 | 学校の実態に即した目標が設定され、教師間の共通理解のもとに、教育目標の具現化を図る。 | 前年度の本校教育課題や生徒の実態を踏まえた適切な重点目標を設定する。 | 3.2 | **3.2** |
| | | | 校務分掌及び学年の経営方針にも学校教育目標を具現化する方策を盛り込んで実践する。 | 3.3 | **3.4** |
| | | | 目標達成の度合いを年度途中で評価・確認する機会を設け、その後の教育活動に生かす。 | 3.1 | **3.2** |
| ②学校経営方針 | 経営方針の明確化とその実践 | 経営方針が学校内に明確に示され、教職員間の相互理解と保護者・地域の支持に基づく教育活動を行う。 | 本校の教育課程を明確にして、中期的な学校ビジョンを検討する。 | 2.9 | **2.9** |
| | | | 各教職員が経営方針を意識して教育活動を展開する。 | 3.2 | **3.3** |
| | | | 教育方針や経営方針を生徒・保護者・地域等に説明したり、情報を流し、宣伝したりする機会を設ける。 | 2.6 | **2.5** |
| ③学年経営 | 学年目標の具現化 | 学校目標に沿った学年目標による経営を行う。 | 学年目標を教員・生徒へ浸透させ、その目標達成のための教育活動の展開を図る。 | 2.8 | **2.8** |
| ④学級経営 | 学級目標の具現化 | 学校目標及び学年目標に沿った学級づくりを行う。 | 学校目標や学年目標に沿って、学級の実態に応じた学級目標を設定し、学級経営を行う。 | 2.8 | **2.9** |

**【評価分野】　２　教　育　活　動**

| 評価項目 | 具体項目 | 目　　標 | 具体的方策 | 評価 昨年度 | 評価 本年度 |
|---|---|---|---|---|---|
| ①教科指導 | 分かる授業の展開と工夫・改善<br>適切な学習評価 | 指導方法に創意工夫がなされた授業を行う。 | 生徒の実態に応じて教材を精選し教育機器等を用いるなどして指導方法を工夫する。 | 3.2 | **3.3** |
| | | | 習熟度・添削等、個に応じた指導を行い、学力向上に取り組む。 | 3.1 | **3.2** |
| | 学習意欲や教科に興味関心を喚起させる授業の展開と工夫 | 生徒の実態に応じて教材の精選や工夫、教具の活用を行う。 | 生徒の家庭学習時間を一日平均６０分以上にする。 | 2.1 | **2.0** |
| | | | 各種検定の合格率を上げ、生徒全員が２種目以上の資格を取得できるようにする。 | 2.7 | **2.8** |

評価基準：　４．十分達成している　　３．おおむね達成している
２．どちらかというと達成されていない　　１．ほとんど達成されていない

【評価分野】　２　教　育　活　動　（前ページより続く）

| 評価項目 | 具体項目 | 目　　標 | 具 体 的 方 策 | 評　価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 昨年度 | 本年度 |
| ②課題研究（総合的な学習） | ねらいが明確で創意工夫を生かした学習活動 | 教職員の共通理解のもと適切な評価を行う。 | 課題研究・総合的な学習は地域や学校の特性を生かしたものにする。 | 2.6 | 2.7 |
| ③特別活動 | ＨＲ活動の充実 | 生徒の自発的・自主的な活動を行う。 | 年間計画に基づいたＨＲ計画を立て事前準備を行い、活発なＨＲを展開する。 | 2.6 | 2.4 |
| ④生徒指導 | 基本的生活習慣の確立 | 生徒理解に基づき、全教職員できめ細かな生徒指導を行う。 | 年間生徒退学者数を、３名以内にする。 | 3.1 | 3.0 |
| | | | 生徒の面談を各学期に１回以上行う。 | 2.7 | 2.7 |
| | | | 礼法指導をとおしてマナー指導を徹底する。 | 2.9 | 3.2 |
| ⑤進路指導 | 進路指導の充実 | 系統的・計画的な進路指導を行う。 | 卒業時に生徒の進路目標を１００％達成する。 | 3.2 | 3.1 |
| | | | 企業求人の増加を目指し積極的に活動する。 | 3.2 | 3.2 |
| ⑥健康・安全教育 | 健康や安全に対する態度の醸成 | 健康・安全な生活を送るための指導を行う。 | 身の回りの安全と健康に配慮しながら心身ともにたくましく育て、欠席者を減らす。 | 3.0 | 3.0 |
| ⑦人権教育 | 人権尊重に対する普遍的価値観の醸成 | カウンセリング・マインドを持って生徒の相談に応じる。 | 人権に対する認識を高め、生徒・保護者との信頼関係を作り上げる。 | 3.0 | 3.2 |
| | | | いじめなどの問題行動等について、積極的かつ適切に対応する。 | 3.3 | 3.5 |
| ⑧部活動 | 部活動の活性化 | 部活動への参加を奨励し、活発な活動を行う。 | 生徒の部活動所属率を８０％以上にし、部活動を活性化する。 | 2.9 | 2.9 |

【評価分野】　３　組　織　運　営

| 評価項目 | 具体項目 | 目　　標 | 具 体 的 方 策 | 評　価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 昨年度 | 本年度 |
| ①校務分掌 | 適切な役割分担・組織的な活動と運営 | 各分掌の業務を均等化する。 | 前年度の各分掌の課題を確認し､その課題解決を図り検証する。 | 2.8 | 2.9 |
| | | | 教職員の分掌による仕事量をできる限り均等化する。 | 2.9 | 2.7 |
| ②校内研修 | 研修体制の確立と実践 | 各種の校内研修を計画的に実施して職員の意識を高める。 | 各学期に１回以上、各分掌や各教科において、研修会等を実施する。 | 2.8 | 2.9 |
| ③現職教育 | 教職員の資質向上への取り組み | 計画的・組織的に授業研究等を行い、生徒に分かる授業を展開する。 | 公開授業や研究授業を各教科において学期に１回実施する。 | 1.8 | 1.7 |
| ④いじめ対策 | 組織的な対応 | いじめ対策強化 | いじめ対策基本方針に基づき、いじめの早期発見と対応を行う。 | 3.2 | 3.4 |

評価基準：　４．十分達成している　　３．おおむね達成している
２．どちらかというと達成されていない　　１．ほとんど達成されていない

【評価分野】　４　教　育　環　境

| 評価項目 | 具体項目 | 目　　標 | 具 体 的 方 策 | 評　価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 昨年度 | 本年度 |
| ①学校環境の整備 | 潤いのある生活環境の整備 | 日々の清掃を徹底し美化意識を高める。 | 地域清掃活動を学期に１回以上行い、ボランティア意識を高める。 | 3.3 | 3.2 |
| ②施設・設備の管理 | 施設・設備の定期点検及び経費の節減 | 施設・設備の有効な活用が図られ、安全点検等の管理を適切に行う。 | 施設・設備の定期点検を学期に２回以上行い環境整備に努める。 | 3.1 | 3.0 |
| | | | 光熱水費・通信費を前年比の－5%に抑える。 | 2.9 | 3.3 |
| ③情報インフラの整備・充実 | 教育活動全般の情報化 | パソコン等を使った校務処理を適切に行う。 | コンピュータを操作できる教員を１００％とし、指導に生かす。 | 3.4 | 2.7 |
| | ホームページの更新 | ホームページを見やすくし定期的に更新する。 | ホームページの更新を毎月１回以上行う。 | 3.2 | 2.3 |

【評価分野】　５　開かれた学校づくり

| 評価項目 | 具体項目 | 目　　標 | 具 体 的 方 策 | 評　価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 昨年度 | 本年度 |
| ①保護者との連携 | ＰＴＡ活動の充実 | 生徒に関する情報の相互交換を密にする。 | 学校便りや学年通信を作成し、学校の教育方針や具体的活動についての情報を提供する。 | 2.5 | 2.1 |
| | | 学校方針や具体的教育活動についての情報を保護者等へ積極的に提供する。 | ＰＴＡ活動を活性化し、総会・評議員会や学校行事への参加を促し、学校運営に反映させる。 | 2.3 | 2.4 |
| ②地域や関係機関との連携 | 連携の充実 | 関係機関との連携を図る。 | 近隣地域の高校・小中学校・関係機関との情報交換や連携を図る。 | 2.4 | 3.2 |

評価基準：　４．十分達成している　　３．おおむね達成している
２．どちらかというと達成されていない　　１．ほとんど達成されていない

【成果と課題等】

重点目標（１）　行事等が通常開催されたことで生徒が主体的に取り組む行事が運営できた。課題としては、行事での取組が学校生活全般につながるように指導することである。
重点目標（２）（３）生徒の家庭学習時間の確保と学習に取り組む仕掛けづくりが課題である。各教科でClassiを活用した学習支援の在り方や指導と評価の一体化に対する理解を深める必要がある。
重点目標（４）　生徒指導上の問題が多った。マナー指導や人とのかかわり方など、特別活動の時間を有効的に活用するなど組織的な課題解決に取り組むことが急務である。
重点目標（５）　学校説明会の充実を図るなど募集定員確保の取組は評価できるが、中学生や地域の方へのＰＲ不足は否めない。広報の重要性を全職員が理解し、学校ホームページの更新作業を誰でもできるような仕組みをつくるなど「誰かがやる」のを待つのではなく、「自分がやる」ことで業務の平準化を図る。